

郷土資料館だより

Vol.31. No.3

2009.3.15

企画展「屏風に描かれたふるさと三島」開催中

●開催期間 平成21年3月15日(日) ～ 平成21年5月24日(日)

三島市有形指定文化財である三島宿風俗絵屏風は、江戸時代の三島宿の様子を語る上では欠くことのできない貴重な資料です。横6メートルに及ぶ六曲一双の大画面に川原ヶ谷を中心とした箱根街道、宿内の三嶋大社、問屋場、本陣、旅籠、商家の様子やそれぞれに関わる人々など、往時の三島の人々の生活の諸相が生きいきと描きだされています。この企画展では、三島宿風俗絵屏風にスポットをあて、屏風に描かれた景物について絵図や文書などの資料を通して紹介し、江戸時代の三島宿の様子を概観しようとするものです。また、今回の企画展に併せ、三島でははじめての公開となる世古本陣図屏風(二曲一隻)を展示紹介いたします。

展示内容

三島宿風俗絵屏風、世古本陣図屏風、宿内軒並絵図、浮世絵版画など



だれ？

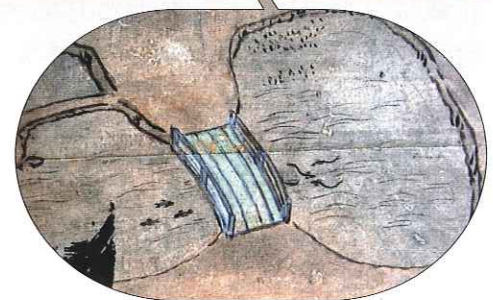
売薬の行商人のようです。背中にしょっているのは薬箱。江戸時代では自家製剤の薬をもって全国の町や村々に行商に出かけました。読み書きや算盤ができ、薬や医学の知識があるので、得意先での信頼が厚かったといわれています。



三島宿風俗絵屏風 (左隻)

ウナギ発見!

三嶋大社の鳥居をくぐったところにある心字池(神池)、よく見ると橋の付近に鯉とともにウナギが泳いでいます。ウナギは三嶋明神の使いとされて、氏子はウナギを食べなかったそうです。そのため江戸時代では三島を流れる清流にもウナギが多かったといわれています。



三島宿風俗絵屏風 六曲一双 紙本著色 小沼満英筆 三島信用金庫蔵

通常の屏風よりひとまわり小さい中型の屏風（六曲一双）で、画面全体に江戸時代の三島宿を中心とした風景が描かれています。今から約170年前の天保年間（1830～43）に三島宿の旧家山口家（本町）に半年のあいだ逗留した絵師小沼満英が、宿代としてこの屏風を描き残したと伝えられているものです。残念ながら作者の満英については、屏風に記された落款・印章がわかるのみで絵師としての画歴や人物については不明です。

画面は当時の描写手法にしたがい、宿場とその周辺の景観を俯瞰的に捉え、省略と強調の手法を取り入れながら東西の距離を大幅に縮小し、建築物も主な建物に限定した構成がとられています。樹木や人物の表現描写は簡略ですが、四季の景観を盛り込みながら、全体的な宿場の賑わいや湧水に恵まれた三島の生きいきとした風景を描き出すことに作者の主眼が置かれているようです。

右隻（向かって右側の屏風）[p.2 写真]は秋と冬の季節で白雪の富士を遠望として箱根西麓を望み川原ヶ谷、新町橋にかけての東海道筋や農村風景、左隻（向かって左側の屏風）[p.1 写真]は三嶋大社から千貫樋のある境川までの賑やかな宿内の様子を春と夏の季節感を漂わせながら描かれています。

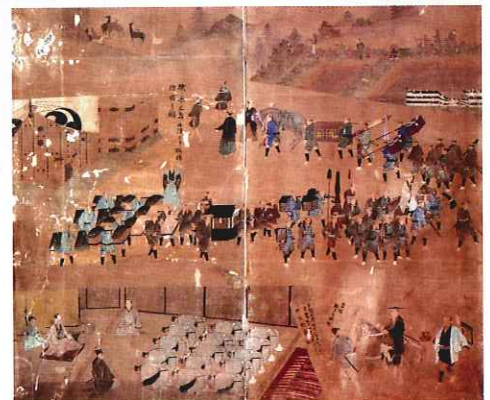
屏風の前に立って静かに眺めていると、そこには約170年前の三島宿の往来や庶民生活の賑わいと豊かな湧水の音が聞こえてくるようです。



三島宿風俗絵屏風（右隻）

世古本陣図屏風 二曲一隻 紙本著色 世古直史氏蔵

江戸時代、愛鷹山麓は幕府御用馬の放牧場でした。屏風は、世古本陣で牧士と対面後、隊列を組んで牧場へ向かう豊後守一行を描いています。



世古本陣図屏風

第12回富士・沼津・三島3市博物館共同企画展「あそび歳時記」報告

●開催期間 平成20年12月14日(日)～平成21年2月22日(日)

今回の展示は、「あそび」をテーマに、昔から伝わる伝統の遊びや季節毎の遊びを紹介しました。

また、日本雪だるまの会の協力を得て、展示期間にあたる正月にちなんだ郷土玩具「和凧」「羽子板」「独楽」「達磨」を展示紹介しました。

現在では子どもたちを取り巻く環境の変化やコンピュータゲームなどの台頭により、昔ながらの遊びが次第に薄れつつありますが、この展示を契機として少しでも伝統的な遊びの持つ面白さを知っていただけたらと思いました。



ミニ郷土羽子板 (赤池正明氏蔵)



各地の達磨 (山梨博康氏蔵)



三四呂人形 (少年の四季・冬)



各地の和凧 (長谷川英一氏蔵)

郷土教室「懐かしの紙芝居」報告

●開催期間 平成21年1月11日(日) 10:45～12:45～

●ふうせん紙芝居そら☆えすプリ～も (国民文化祭PRボランティア)

●参加者 楽寿園来場者中 約250人

●会場 楽寿園中央広場

富士・沼津・三島3市共同企画展「あそび歳時記」に併せて、郷土資料館所蔵の昔懐かしい教育紙芝居をふうせん紙芝居そら☆えすプリ～も (国民文化祭PRボランティア) のお二人に上演していただきました。

楽寿園の焼き芋大会と同時開催だったことで、朝から多くのお客が集まりました。紙芝居には大人も子どもも真剣に見入っていました。子どもたちが講師の問いかけに応え紙芝居が展開していく様子が見受けられ、紙芝居のおもしろさを感じていただけたと思います。

またバルーンが加わることで、より一層お話が楽しいものになりました。収蔵資料の紙芝居を生かすことができよかったです。



午前の部



午前の部



午後の部

ふるさと講座「頼朝道を歩く～頼朝伝説めぐり～」報告

- 開催期間 平成20年11月29日(土) 9:00～12:00
- 講師 迫田 信行氏 (郷土資料館運営協議会委員長)

源頼朝が百日祈願の際に通った道筋でもある旧下田街道沿いには、三嶋大社をはじめとする頼朝ゆかりの地や多くの伝説が残り、後に「頼朝道」ともいわれるようになりました。

この講座では、旧下田街道を中心とした頼朝ゆかりの地を巡ると同時に、街道沿いの史跡についても探訪しました。当日は天候に恵まれ無事に開催することができました。講師の迫田先生には判り易くお話をいただき、熱心にメモを取る参加者の姿が多く見られました。参加者からも「頼朝に関する場所を再認識できるよい講座でした」、「歴史ある三島の地に住んでいることに幸せを感じます」、また「県外からの来客の折りには是非今回回った各所の2・3ヶ所でも案内したいと思います」と今回の講座を通して知人に三島を案内していこうという参加者もおられ、大変好評でした。

見学内容 三嶋大社宝物館→三嶋曆師の館→願成寺→薬師院→光安寺→市ヶ原看板建築→
 祐泉寺→法華寺→妻塚→間眠神社→笠縫橋→言成地藏



薬師院



祐泉寺にて 迫田先生のお話



法華寺

学芸員の一品

収蔵資料の中から学芸員の選んだ一品を3階展示室に展示しています。(担当 政木愛子)

～教育紙芝居(印刷紙芝居)～

紙芝居は、演じ手が数枚から十数枚の絵を一枚ずつ見せながらお話を語り、見せ終わった絵は横に引き抜き、裏に回していくものです。

古来より、日本には「絵解き」と言って、絵を見せながら物語を語って聞かせる伝統があり、寺では僧侶が曼荼羅や寺の縁起を「絵解き」で参拝者たちに語って聞かせていました。

江戸時代から明治・大正にかけては、小さな穴から箱の中の絵を覗く「のぞきからくり」や「写し絵」、「手影絵」、「影絵眼鏡」が人気を集めていました。

そのうち、「立絵」が登場し、昭和初期に現在の紙芝居が登場するまでこの立絵が「紙芝居」と呼ばれていました。

現在のような紙芝居は、昭和初期に日本で誕生した日本独自のものです。はじめは、水あめやせんべいなどの駄菓子を売ることを目的とし、自転車で街頭をまわって集まった子供たちに手描きの紙芝居を語る「街頭紙芝居」でした。

その成功を見て、宗教・教育・思想啓発のための教材として「教育紙芝居(印刷紙芝居)」が刊行されるようになりました。テレビなどの普及により衰退していきませんが、紙芝居の影響力は大きなものでした。現在でも図書館や幼稚園などで読まれ、日本の文化として大切にされています。



紙芝居『にげだしたにんじんさん』

獅子神楽調査報告

山梨県南都留郡道志村神地には「三島から伝わった」と言い伝えられている獅子舞があります。道志村は、山梨県の東南端に位置し山に囲まれた溪谷の村で、村を流れる道志川は横浜水道の水源となっています。

三島市には現在、獅子舞が行われている地域はありませんが、御殿場や伊豆、熱海では例祭時に獅子舞が奉納されている神社があります。また、富士市にも同じような獅子舞が伝わっています。これらはみな演目やお囃子がよく似ています。

神楽には様々な系統がありますが、獅子神楽もその一つです。獅子神楽は、獅子頭をご神体として各地を回って悪魔祓いや除災招福のご祈祷をする神楽のことです。東北地方に伝わる山伏神楽と、伊勢や尾張を発祥とする太神楽があり、この太神楽は江戸中期頃になると各地の村の人々のあいだで学ばれるようになり地域の芸能として伝承されていきました。東部・伊豆地域の獅子舞はこの太神楽系に属しています。

昨年度発行した『三島市郷土資料館研究報告1』では道志村の獅子舞と熱海市の今宮神社に伝わる獅子神楽(写真①)について紹介しました。これらと類似する獅子舞が西伊豆町にも伝承されています。

西伊豆町の無形民俗文化財に指定されている野畑天神社の神楽は、毎年、例祭日の11月2日の宵祭り^{よひ}と3日の本祭りの際に境内にある庁屋で獅子舞が奉納されます。3日の奉納後には、獅子が地区内の家々を回り悪魔を払い、五穀豊穡・家内安全を祈ります。舞は「さがりはの舞」(写真②)「剣の舞」(写真③)「新拍子の舞」「くるいの舞」(写真④)と順に舞われます。この神楽についての由来ははっきりしていませんが、明治のはじめに、田方(現在の伊豆の国市)のバラキカグラが来て教えてもらったこともあったようです。昔からこの地区では、神楽を長く継続していくために、地区を離れることのない長男だけが継承を許されており、現在でもこれは変わることなく確実に次の世代へ受け継がれています。

獅子神楽は、各地域で伝承されていく中で少しずつ変化しその土地独自の神楽となっていくたり、由来がわからないもの、失われてしまったものなど様々ですが、三島をとりまく地域にはまだ他にも獅子舞が受け継がれています。今後調べていく中で三島から伝わったといわれる由縁^{ゆえん}が明らかとなり、三島についてより多くのことを皆さんにお伝えできればと考えています。(学芸員 政木愛子)



① 今宮神社の獅子神楽「つるぎのまい」



② 野畑天神社の神楽「さがりはの舞」



③ 野畑天神社の神楽「剣の舞」



④ 野畑天神社の神楽「くるいの舞」

刊 行 物 案 内

『三島宿関係史料集(3)』「覚書一冊(三島宿明細)」

三島宿研究会の協力で江戸期の覚書を解説しました。「三島宿代官之覚」「三島付馬定助平助之覚」など寛文・延宝年間あたりの記事を中心に、貞享、元禄頃までの三島宿の様子分かる貴重な資料です。

『三島市郷土資料館研究報告2』

〔所収予定〕

郷土資料館所蔵『古今和歌集大傳授』翻刻・解題(鈴木隆幸)

伊豆国検地に関する覚書き(橋本敬之)

伊豆箱根鉄道開設史(桜井祥行)

(4月下旬より頒布予定。頒価未定)



「覚書一冊(三島宿明細)」



『古今和歌集大傳授』

寄 贈 資 料 紹 介

平成20年10月から11月上旬に、次の方々からたくさんのご寄贈の協力をいただきました。ありがとうございました。(50音順・敬称略)

岩渕 エミ 東京都	「北上村役場廳舎新築工事録」等資料	1括
鬼丸喜美治 三島市	白繭俵形	1包
	白繭楕円形	1包
	内層黄繭形	1包
	欧州形黄繭	1包
	南方形黄繭	3包
高村 昌子 三島市	三島町役場様式	23点
	東京日日新聞(夕刊)	5点
	國の華 第4集	1点
	富三和 第3集	1点
藤岡 武雄 三島市	斎藤茂吉関連資料	1括
	藤岡武雄関連資料	1括
	近代文学者関連資料	1括



「北上村役場廳舎新築工事録」等資料一部

【編集後記】

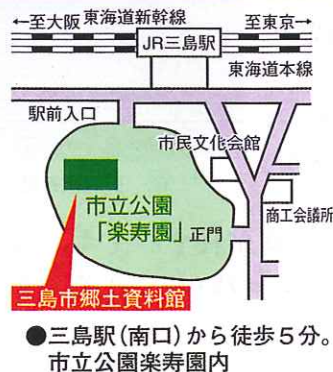
今年度も無事当館の事業が終了します。多くの方々のご協力により見ごたえのある展示ができました。講座についても参加者には喜んでいただくことができ、うれしいお言葉をたくさんいただきました。来年度もより充実した内容にしていきたいと思いますので今後もよろしくお願いたします。(M)

利 用 案 内

●休館日
毎週月曜日
(祝日の際は翌日)
12月27日～1月2日

●開館時間
午前9時～午後5時
(4/1～10/31)
午前9時～午後4時30分
(11/1～3/31)

●入館無料
(ただし、楽寿園入園の際に有料)



郷土資料館だより vol.31 No.3 (第93号)

発行日 平成21年(2009)3月15日
(年3回発行)

編 集 三島市郷土資料館
〒411-0036
静岡県三島市一番町19-3 楽寿園内
TEL 055-971-8228
FAX 055-981-3730

E-mail: kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp
URL: http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo/
発 行 三島市教育委員会